

インテリア茶箱 説明文

◆茶箱とは

- 元々はお茶の葉を新鮮に保存、運搬するために江戸時代後期より使われてきた杉の木箱です。
- 20世紀初頭から防湿、防虫のために内側にトタンを施し、機能を高めています。
- 本来の目的であった茶葉の保存、運搬はアルミ袋等に推移し、代わって、その機能性の高さから衣類、雑貨、アルバム、乾物等の食品入れなど、あらゆるものの保存に使われるようになりました。
- インテリア茶箱クラブで使用する茶箱は静岡県産の杉を使い、綿密な工程を経て、箱サイズ毎にパーツのバランスを考えて製造された、とても質の良いものです。概ね15歳以上の間伐材を利用し、最低でも3か月は風雨に晒し、重しを載せて乾燥させて歪みやそりを防いだ材木を使用しています。
- 多くの手作り産業と同様、茶箱需要は減少の一途を辿り、職人も激減しています。（2017年7月現在、全国で5人）

◆インテリア茶箱クラブとは

- 主宰パイザー真澄が1998年に「布張り茶箱」に出会い、1999年、教室活動をはじめ、2004年に「茶箱の存続・普及」を目的として法人化しました。
- 茶箱の需要掘り起こしを主導しつつ、茶箱産業の存続を目指して産地と協力体制をとり、腕の良い茶箱職人のもとで後継者の育成にも尽力しています。
- また、常に制作工程や技術に改良を加え、生地のパリエーション、デザイン、新しい用途を開拓し、装飾性の高い収納家具・オーナメントとして生活空間に採用する提案をしています。
- 教室運営、オーダー受注、既製品販売、ウェブショップ運営などを通して普及活動を展開しています。
- 同時に全国に認定教室を輩出しています。（※2017年7月現在：認定教室81箇所）

◆布張り茶箱とは

元々は茶箱の特性に目をつけた日本在住の外国人がソフトファニッシングを基礎とし、チェストやオットマンになぞらえて、1960年ごろから和の布を使った和風クラフトとして作り出したと言われています。

◆「インテリア茶箱」(登録商標)とは

- 和の布のみならず、インテリアファブリックをはじめ、世界各国の生地を茶箱に張り、「見せる収納」として使い勝手やデザイン、技術を発展させたものを「インテリア茶箱」といいます。
- 大きさも20種類あり、卓上サイズからベンチサイズまで、用途に合わせた大きさに対応します。大きめなサイズは座ることができるよう、補強を施した作りになっています。
- 蝶番や脚、キャスター取り付けなども可能にし、使い勝手を向上させています。また、蓋の裏側にアートを施したり、メッセージやロゴを入れるなどして記念品などオケージョンに合わせたカスタム化も可能です。
- 近年では茶箱を媒体として、友禅染めなど、伝統的工芸品の新しい活路としても注目されています。
- 2015年にはパリのジャパンエキスポでの展示販売、2017年にはフランスの「ジュイ美術館 [Musée de la Toile de Jouy](#)」にてフランス伝統生地を使った作品の常駐展示も始まり、日本のみならず、海外へのアプローチも始めています。
- 2015年からは、素のままの茶箱や、レーザーで文様などを刻印した「レーザー茶箱」など、茶箱本来の風合いを楽しみつつ手軽に日用品として使えるラインも導入し、普及が進んでいます。



<インテリア茶箱クラブ書籍>

美しく暮らすための上質収納「インテリア茶箱の世界」

発行dZERO

価格**3,200円** (税込3,456円)

第一刷 2015年12月29日

お部屋が華やか極上収納「インテリア茶箱」

発行(株)梧桐書院 発売

価格**2,300円** (税込2,484円)

第一刷 2009年9月22日

第三刷 2015年3月1日

(有) インテリア茶箱クラブ 03-6421-5257

info@chabako.jp

<http://www.chabako.jp>

INTERIOR CHABAKO



インテリア茶箱



INTERIOR CHABAKO



インテリア茶箱





2017/8/3



5



11/18/3

6



2017/8/3



2017/8/3

